オープンアクセス加速化事業による NII RDC新機能と提供について

国立情報学研究所 オープンサイエンス基盤研究センター
谷藤 幹子

第4回 オープンアクセス加速化事業におけるNIIの開発内容を説明する会

2025年9月25日

© 2025 National Institute of Informatics

NII RDCのOA加速化事業の進捗状況

NII

■即時OAを可能とする機能の開発状況

✓ 外部機関による評価

図書館員が

機関の論文および根拠データを、
機関リポジトリに簡単に登録＆公開できる

- ✓ OAダッシュボードの機能強化（機関向け、研究者向け）
- ✓ OAアシストのメール機能等の強化、APIの開発
- 6 OAアシストのポリシーDBの整備とポリシー確認機能の開発
- ✓ リポジトリ（JC）でOAコンテンツを分かりやすく見せる機能
- 8 リポジトリ（JC）利用機関へのアクセスをモニタリング

研究者が

研究PJデータを、自分自身で、
または図書館を介して、
機関リポジトリへ一括登録できる

1. データ管理（GRDM）での査読付論文(著者最終)と書誌情報の登録機能の開発
2. 論文と根拠データを紐づけて、メタデータをリポジトリ（JC）へ登録する機能の開発
3. 論文登録業務プロセスの研究者と図書館の双方の負荷軽減のためのワークフローシステムの開発

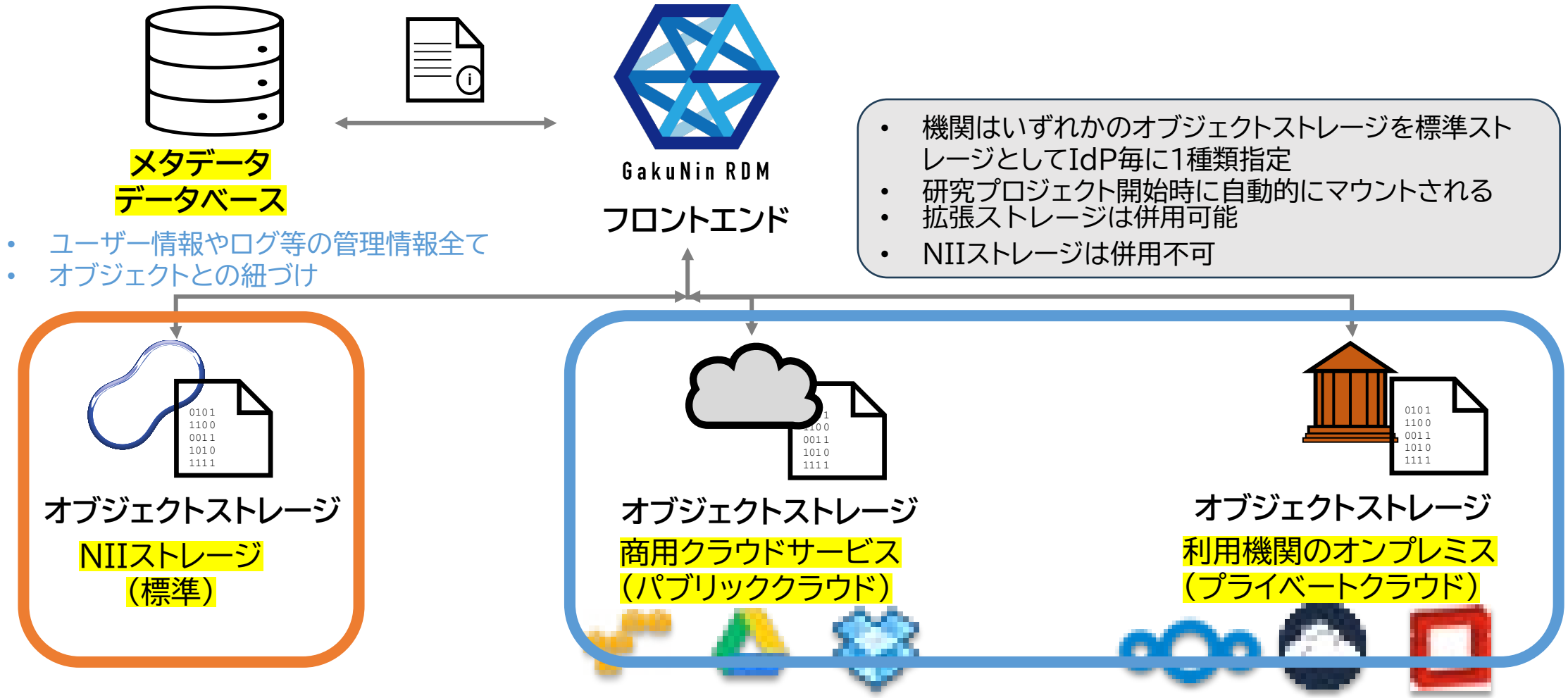
政府機関が

日本のOA加速化の成果が機関ごとに確認できるようになる
日本のOS状況がわかる（G7対応含む）

- ✓ CiNii Research機関向けダッシュボード
  OA論文、研究データ、科研費、国際共著等に関する指標ページ構築
- ✓ French Open Science Monitor日本版
  （文献メタデータ取込、OA指標算出、表示ウェブアプリケーション）

GRDM：研究データ（実体）とメタデータ管理

- データ（実体）とメタデータ（説明情報）を分けたシステム構成



- ユーザー情報やログ等の管理情報全て
- オブジェクトとの紐づけ

- 機関はいずれかのオブジェクトストレージを標準ストレージとしてIdP毎に1種類指定
- 研究プロジェクト開始時に自動的にマウントされる
- 拡張ストレージは併用可能
- NIIストレージは併用不可

JAIRO Cloud：FAIR対応

- 研究データや関連情報を構造化してパッケージ化し、FAIR原則に沿った公開を可能に。

現状

GakuNin RDM

メタデータ（TSV形式）＋ データ実体(オブジェクト)

転送規格：BagIt

JAIRO Cloud

論文とデータを
1つのアイテム
として公開

今後

GakuNin RDM

メタデータ（TSV形式）＋ データ実体(オブジェクト)

転送規格：BagItまたはRO-Crate

JAIRO Cloud

論文とデータを
分割し
個別アイテムと
して公開

① メタデータ出力の
カスタマイズが可能に

JSON-LD を使い研究データ
や関連情報を構造化して
パッケージ化するRO-Crate

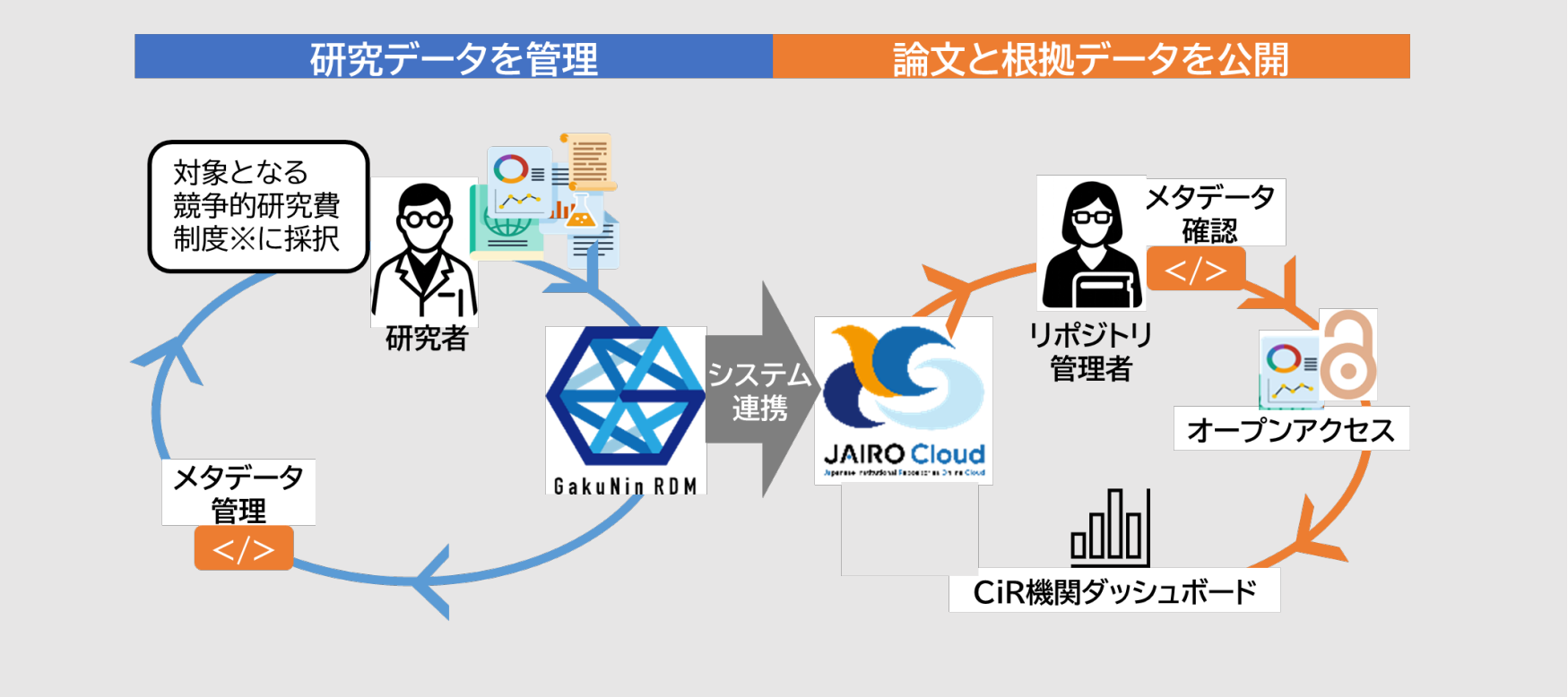
② 論文と根拠データの
分割公開を可能に

③ リポジトリ管理者が
中身を確認して
公開できるように

ワークフロー機能

NII RDC:内閣府による即時OA義務化に対応する機能

- 非公開データを扱うGRDMから，論文と根拠データをJAIRO Cloudに転送し公開する（ユースケース）



■2025年度
- GRDM-JAIRO Cloud連携**試験版を提供**
  - 未公知データを公知にする利用、運用評価など
- 機関OAダッシュボードの運用を開始
- 窓口体制の構築

■2026年度予定
- GRDM-JAIRO Cloud連携**正式版を提供**
- ほか関連機能のリリース

※JSPS 科学研究費助成事業、JST 戦略的創造研究推進事業（カーボンニュートラル技術開発（ALCA-Next）及び情報通信科学・イノベーション基盤創出（CRONOS）を除く）、AMED戦略的創造研究推進事業（革新的先端研究開発支援事業）、JST 創発的研究支援事業

NII RDCのOA加速化事業の今後予定

NII

■（今後の年次計画）５カ年程度の計画

取組内容	２０２４年度（令和６）	２０２５年度（令和７）	２０２６年度（令和８）	２０２７年度（令和９）	２０２８年度（令和１０）
１．機能開発（課題１～３） 課題１：論文のグリーンOA促進支援機能の高度化、 課題２：GakuNin RDM と連携した根拠データの管理・公開機能の高度化、 課題３：エビデンスに基づいたポリシー・戦略の策定を可能にするモニタリング機能の整備	開発	➢ 内部試験 ➢ 外部試験 ➢ 安全評価 ➢ 内部運用試験 ➢ リリース判定	試験参加機関 ・JC導入(R6) ・OAアシスト、ダッシュボード（R6-7） ・データ管理GRDM-リポジトリJC連携(R7)		
２．実装、運用（課題１～３） 上記１で開発した機能の実装と運用				➢ 政府システムとの連携	
３．認証機能整備（課題４） 研究者による積極的な参画を実現する高セキュアな認証基盤の整備	環境構築	ほか並行して ➢ NII説明会 ➢ 意見集約 ➢ 情報発信など	第三四半期～ 順次に運用開始		➢ 仕様 ➢ 方式 ➢ 試験、評価等
４．認証機能運用（課題４） IdP ホスティングサービスの運用			6月 NII Open Forum 10月 図書館総合展 11月 NII事業説明会 12月 AXIES ほかWebinar等		
５．JAIRO Clooud 移行支援（課題５） 独自システムから JAIRO Cloud への効率的な移行支援	移行支援				

NIIの即時OA開発内容に関する説明会

- 第１回（2024年11月1日）https://rcos.nii.ac.jp/OpenAccessNii20241101/
  - 全体説明 山地一禎
  - JAIRO Cloudについて　林正治・河合正志
  - GakuNin RDMについて　込山悠介
  - モニタリングについて　西岡千文
  - 認証について　鈴木彦文

  【参加者】申込591名、最大接続469名

  【参加者の声】

  ・これまで見えにくかったNIIの即時OA取組の全体像がざっくり把握できた

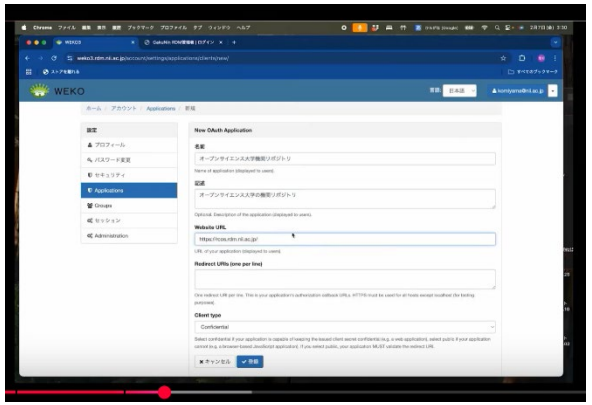
- 第２回（2025年2月7日）https://rcos.nii.ac.jp/OpenAccessNii20250207/
  - 即時OAにおけるJAIRO Cloud連携機能について 込山悠介・林正治

  【参加者】申込394名、最大接続316名

  【参加者の声】

  ・動画を使った説明など工夫されていて、理解しやすかった

  ・現場の視点に立ったご意見やご回答を伺えたことを心強く感じた



NIIの即時OA開発内容に関する説明会

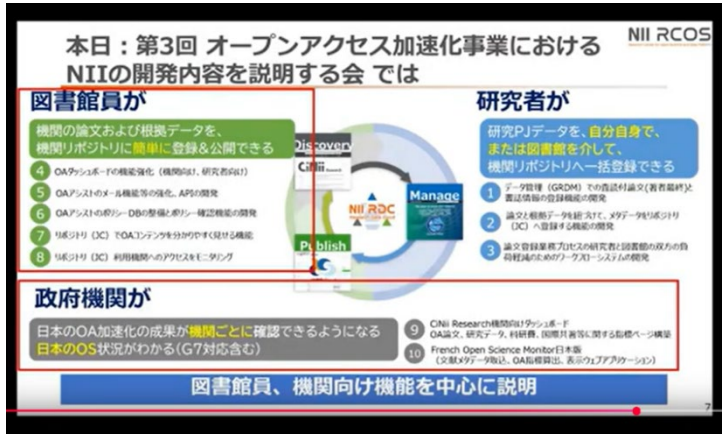
- 第３回（2025年7月4日）https://rcos.nii.ac.jp/OpenAccessNii20250704/
  - 開会挨拶　谷藤幹子
  - NII RDCによる即時OA対応の現状　林正治
  - 加速化事業を経たOAアシスト機能　河合将志
  - オープンサイエンスモニタリング　西岡千文

  【参加者】申込475名、最大接続397名

  【参加者の声】

  ・NIIの取り組みと進捗状況をコンパクトに把握できた。

  ・時間の限り質問に答えていただけたことがありがたかった。



- 第４回（2025年9月25日）https://rcos.nii.ac.jp/OpenAccessNii20250925/
  - 開会挨拶＋概要説明　谷藤幹子
  - GJ連携：GakuNin RDM パート　下山武司
  - GJ連携：JAIRO Cloud パート　林正治

  【参加者】申込352名（9/25 10時現在）

NIIサービスキャラバン2025 個別相談から

NII

- **A大学（9/18, 名古屋会場）**
  - JAIRO申し込み中。9月中旬に利用開始見込であるため、初期設定を行う意向だがその際の不明な点などを相談したい。
  - 学認RDMからの連携を見越して、JAIRO側でどのような設定をすればよいかわからない。
  - 学認RDMから流れてきた研究データをJAIRO側で公開する際の、職員側の手続きについて詳細を知りたい
- **B大学（10/15, 大阪会場）**
  - RDMの利用について
  - 学認参加について
- **C大学（10/15, 大阪会場）**
  - 研究データ基盤の導入について
  - GakuNin RDMやJAIROクラウド(大学機関リポジトリ）との連携など
- **D機関（10/31, 東京会場）**
  - JAIRO Cloudなど、NIIが提供する学術機関リポジトリサービスの利用条件を教えてください。
  - 令和11年４月の開学を予定している場合、リポジトリサービスの利用開始時期について教えてください。